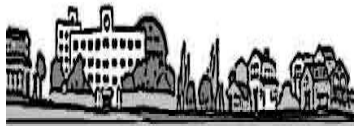




浜ぼうふう



～人，まち，自然が私たちの学校～

太夫浜小学校だより
令和2年4月13日

<http://www.tayuhama-e.city-niigata.ed.jp/>

ピンチをチャンスに

校長 野瀬 浩司

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、様々な意味で特別なスタートとなりました。新任式・始業式や入学式は、参加者や内容を縮小して行いました。学年をまたいでの活動も制限することになり、自教室清掃、委員会の当番活動の一部自粛、ふれあい班の対面式や地域子ども会の中止などを決定しました。

また、先日のおたよりのとおり、今月予定されていた学習参観とPTA総会も延期することになり、他の行事も延期や中止、縮小の検討をしているところです。

突然の臨時休業から、一か月あまり。ようやく、学校にも活気が戻ってきました。しかしながら、誰もが予想しなかった現状は、子どもたちにとっても、保護者の皆様にとっても、学校にとっても、マイナス面や心配なことが多く、通常の学校生活を維持するピンチに立たされています。

このような時こそ、**学校と家庭との連携を強くし、信頼関係をより高めていくことが大切**です。学校では、新潟市教育委員会の指導の下、休み時間ごとの換気、体の接触が多くなる体育の種目や遊びの見合わせ、給食時の配膳の工夫、教職員による教室の消毒作業（放課後）など、いくつもの感染拡大防止策を講じています。子どもへの直接指導に加え、できる限り各家庭にもそれらの情報が伝わるようにしていくことで、少しでも不安感を軽減したいと思います。保護者の皆様もお気付きの点があれば、お知らせいただきたいと存じます。



消毒作業の様子

一方で、発想の転換やプラス思考も必要だと思います。**このピンチを、**普段なら味わうことのない体験をすることによって、**子どもたちの力を伸ばし、心を育むチャンスと捉える**こともできるのではないのでしょうか。一定の条件の中、**自ら工夫してできることを見出していく力、**予期せぬことが起きても、**臨機応変に対応する力、協力して課題を乗り越えていく力**などを高めるよい機会なのかもしれません。ニュースを見ていると、**相手の気持ちになって考える大切さ、自己犠牲をいとわず周りの人のために行動する尊さ**などを、子どもたちにもしっかりと学ばせたい、と感じます。

先が見通せない令和2年度ではありますが、毎年と同じように、教育活動の充実と子どもたちの成長に向け、全教職員が一丸となって取り組んでいきます。「あのときは大変だったけど、その分、大きく成長できたのかもしれないね。」などと子どもたちと振り返る日が、必ず来ることを信じて。